

サービス プロバイダとしての App Launchpad の使用

2020 年 10 月 15 日

VMware Cloud Director App Launchpad 2.0

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1
田町ステーションタワー N 18 階
www.vmware.com/jp

Copyright © 2020 VMware, Inc. All rights reserved. 著作権および商標情報。

目次

1	サービス プロバイダとしての App Launchpad の操作	4
2	App Launchpad にアクセス	5
3	アプリケーションの管理	6
	VMware Marketplace への接続	6
	Helm チャート リポジトリへの接続	7
	App Launchpad へのアプリケーションの追加	7
	VMware Marketplace からのアプリケーションの追加	8
	Helm チャート リポジトリからのアプリケーションの追加	10
	カスタムの仮想マシン アプリケーションの追加	11
	アプリケーションの編集	12
	アプリケーション デプロイ設定の編集	12
	アプリケーションの詳細の編集	12
	アプリケーションのカスタム情報の追加	13
	カテゴリの管理	13
	機能アプリケーションを追加または削除	14
	アプリケーションの削除	14
	サイズ設定テンプレートの操作	14
	サイズ設定テンプレートの作成	14
	デフォルトのサイズ設定テンプレートの設定	15
	サイズ設定テンプレートの編集	15
	サイズ設定テンプレートの削除	16
4	App Launchpad のリソースへのアクセスの管理	17
	VMware Cloud Director の組織へのアプリケーション カタログの公開	17
	VMware Cloud Director 組織からのアプリケーション カタログの削除	18
	カタログの表示を編集	18
5	App Launchpad のトラブルシューティング	19
	VMware Marketplace と App Launchpad の間の接続を作成できない	19
	VMware Marketplace のアプリケーションが同期していない	20
	VMware Marketplace からの vApp テンプレートの同期がタイムアウトする	21
	App Launchpad のランタイム環境構成の編集	21
	サポート バンドルの生成	22

サービス プロバイダとしての App Launchpad の操作

1

VMware Cloud Director[®] App Launchpad™は VMware Cloud Director™のサービス拡張機能であり、開発者や DevOps エンジニア向けにデプロイ対応アプリケーションのカatalogを提供します。

データセンターに App Launchpad をインストールして構成すると、VMware Cloud Director service provider admin portal を使用して App Launchpad ユーザー インターフェイスにアクセスできます。サービス プロバイダとして、App Launchpad 組織レベルで VMware Cloud Director へのアクセスを管理できます。アプリケーションを追加、削除、および編集することもできます。また、アプリケーションのデフォルトのデプロイ設定や、機能アプリケーションのリストを編集することもできます。アプリケーションのデプロイ用のサイズ設定テンプレートを管理できます。

App Launchpad にアクセス

2

VMware Cloud Director service provider admin portal を使用して、App Launchpad の管理ポータルにアクセスします

前提条件

- App Launchpad がインストールおよび構成されていることを確認します。
- VMware Cloud Director のユーザー プロファイルに、システム管理者のロールが割り当てられていることを確認します。

手順

- 1 Web ブラウザで、VMware Cloud Director service provider admin portal の URL に移動します。
たとえば、`https://vcloud.example.com/provider` などです。
- 2 システム管理者のユーザー名とパスワードを使用してログインします。
- 3 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。

アプリケーションの管理

3

VMware Cloud Director プロバイダ管理者は、アプリケーションを追加、削除、および編集できます。機能アプリケーションのリストと App Launchpad サイズ設定テンプレートを管理することもできます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [VMware Marketplace への接続](#)
- [Helm チャート リポジトリへの接続](#)
- [App Launchpad へのアプリケーションの追加](#)
- [アプリケーションの編集](#)
- [アプリケーションの削除](#)
- [サイズ設定テンプレートの操作](#)

VMware Marketplace への接続

VMware Marketplace から App Launchpad にアプリケーションを追加するには、VMware Marketplace と App Launchpad 間の接続を確立する必要があります。

前提条件

有効な VMware Marketplace トークンのトークン ID があることを確認します。『VMware Cloud Services 製品のドキュメント』の [API トークンの生成](#)を参照してください。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (☰) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] タブで [マーケットプレイスの接続] をクリックします。
- 4 トークン ID を貼り付けて、[保存] をクリックします。

次のステップ

VMware Marketplace から App Launchpad にアプリケーションを追加できるようになりました。

Helm チャート リポジトリへの接続

App Launchpad 2.0 以降では、テナント ユーザーはコンテナ アプリケーションを Kubernetes クラスターにデプロイできます。コンテナ アプリケーションのサポート対象ソースは、Helm チャート リポジトリです。

複数の Helm チャート リポジトリを App Launchpad に接続できます。

前提条件

Helm チャート リポジトリを設定していることを確認します。App Launchpad と Helm チャート リポジトリ間の接続を確立するには、リポジトリの URL と、Helm チャート リポジトリのユーザー アカウントの認証情報が必要です。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] タブで [チャート リポジトリ] をクリックします。
- 4 [追加] をクリックします。
- 5 必要なリポジトリの詳細を追加します。
 - a リポジトリの URL を入力します。
 - b 認証タイプを選択します。
 - c Helm チャート リポジトリ ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
 - d 安全な接続を使用している場合は、必要に応じて、リポジトリの自己署名 SSL 証明書を承認するかどうかを選択できます。
 - e [保存] をクリックします。

次のステップ

コンテナ アプリケーションを Helm チャート リポジトリから App Launchpad アプリケーション カタログに追加できるようになりました。

App Launchpad へのアプリケーションの追加

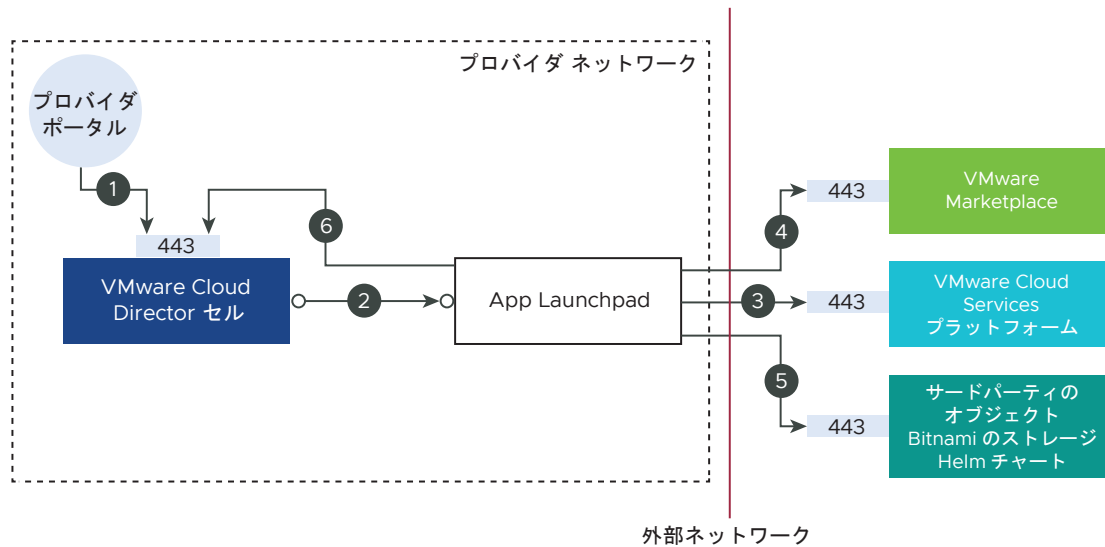
バージョン 2.0 以降では、Helm チャート リポジトリから App Launchpad にコンテナ アプリケーションを追加できます。App Launchpad ユーザー インターフェイスを使用して、VMware Marketplace からアプリケーションやカスタム アプリケーションを追加することもできます。

アプリケーションを App Launchpad に追加する前に、デフォルトの権限バンドルが VMware Cloud Director 内の AppLaunchpad 組織に公開されていることを確認します。詳細については、『VMware Cloud Director Service Provider Admin Portal ガイド』の[権限バンドルの公開または公開の解除](#)を参照してください。

VMware Marketplace からアプリケーションの追加

VMware Marketplace からアプリケーションを追加する場合は、対象の VMware Cloud Director カタログを選択します。VMware Marketplace で新しいバージョンが入手できるようになったら、常にアプリケーションを更新するように App Launchpad を設定することもできます。

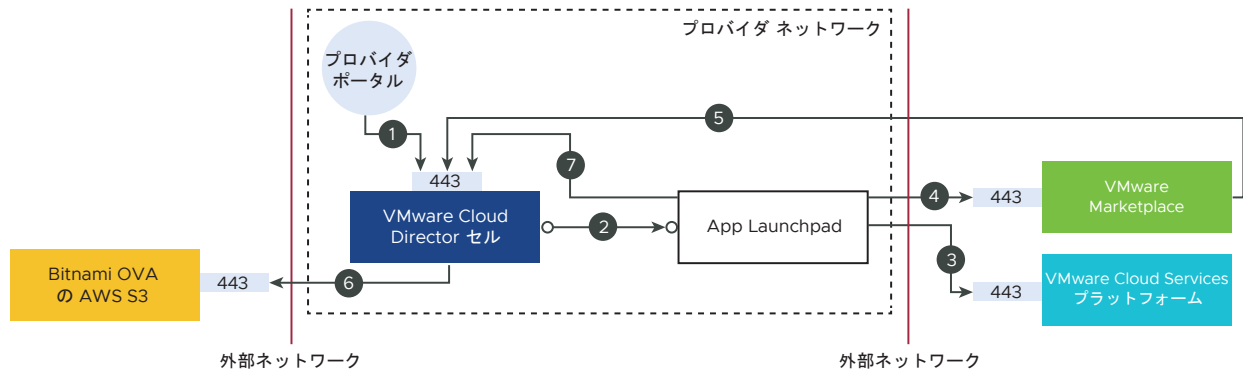
仮想マシン アプリケーションとコンテナ アプリケーションの両方を VMware Marketplace から App Launchpad に追加することができます。次の図は、コンテナ アプリケーションを追加するワークフローを示しています。



凡例

- ① プロバイダは Bitnami コンテナ アプリケーションをカタログにインポートします。
- ② VMware Cloud Director は、API 拡張機能を介して App Launchpad にリクエストをディスパッチします。
- ③ App Launchpad は、保存された VMware Marketplace トークンを検証します。
- ④ App Launchpad は、VMware Marketplace からアプリケーションのサマリ情報をロードします。
- ⑤ App Launchpad は、サードパーティの Bitnami Helm チャート オブジェクト ストレージから Helm チャート定義を取得します。
- ⑥ App Launchpad は、Helm チャート定義を VMware Cloud Director に保存します。

次の図は、仮想マシン アプリケーションを VMware Marketplace から App Launchpad に追加するワークフローを示しています。



- ① プロバイダは Bitnami 仮想アプリケーションをカタログにインポートします。
- ② VMware Cloud Director は、API 拡張機能を通じて App Launchpad にリクエストをディスパッチします。
- ③ App Launchpad は、VMware Marketplace トークンを検証します。
- ④ App Launchpad は、VMware Marketplace でサブスクリプションを作成または更新します。
- ⑤ VMware Marketplace は、VMware Cloud Director でカタログを作成または更新します。
- ⑥ VMware Cloud Director は、AWS S3 の仮想アプリケーション テンプレートとカタログを同期します。
- ⑦ App Launchpad は、VMware Cloud Director カatalogのステータスを確認します。

前提条件

- App Launchpad と VMware Marketplace 間の接続が設定されていることを確認します。 [VMware Marketplace への接続](#)を参照してください。
- VMware Marketplace から仮想マシン アプリケーションを追加する場合は、VMware Marketplace が VMware Cloud Director のパブリック REST API エンドポイントにアクセスできることを確認します。

VMware Marketplace Web コンソールにログインし、VMware Marketplace の出力方向 IP アドレスが VMware Cloud Director への着信アクセスを許可していることを確認します。

仮想マシン アプリケーションを追加する際、VMware Marketplace は VMware Cloud Director にアクセスし、カタログ設定を作成または更新します。

コンテナ アプリケーションを追加する場合は、VMware Marketplace が VMware Cloud Director のパブリック REST API エンドポイントにアクセスできなくてもかまいません。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [アプリケーション] タブで、[新規アプリケーションの追加] をクリックします。
- 4 アプリケーション ソースとして [VMware Marketplace] を選択し、[次へ] をクリックします。

- 5 追加するアプリケーションのタイプを選択します。
- 6 アプリケーションを追加または作成する既存の VMware Cloud Director カタログを選択し、[次へ] をクリックします。
- 7 追加するアプリケーションとそのバージョンを選択します。
一度に複数のアプリケーションを追加できます。
- 8 (オプション) 仮想マシン アプリケーションを追加する場合は、[自動同期を有効にする] を選択して、VMware Marketplace で入手可能なアプリケーションの最新バージョンを同期できます。

自動同期機能が有効になっている場合、VMware Cloud Director は、事前定義された同期間隔でアプリケーションを VMware Marketplace と同期します。同期間隔は、VMware Cloud Director サービス プロバイダの管理ポータルから編集できます。[管理] - [カタログ] に移動し、必要に応じて間隔を編集します。

VMware Marketplace で更新されたアプリケーションの新しいバージョンにすぐにアクセスするには、AppLaunchpad プロバイダ組織内のカタログを手動で同期することもできます。
- 9 (オプション) 仮想マシン アプリケーションを追加する場合は、[既存のバージョンを新しいバージョンに置き換える] を選択して、アプリケーションの最新バージョンのみを取得することができます。
- 10 [次へ] をクリックします。
- 11 アプリケーションの詳細を確認し、[追加] をクリックします。

結果

インポート タスクの完了後、カタログが公開されると、テナント ユーザーはアプリケーションをデプロイして使用できます。

インポート処理が中断された場合、App Launchpad は、最大 120 分間、最大 3 回の再試行を実行して、個々のアプリケーションの同期を再起動しようとします。再試行後にインポート タスクが失敗した場合は、VMware Cloud Director サービス プロバイダの管理ポータルを使用して、失敗した vApp テンプレートを手動で同期するか、失敗した vApp テンプレートを削除してから再度インポートします。

Helm チャート リポジトリからのアプリケーションの追加

App Launchpad 2.0 以降では、Helm チャート リポジトリからコンテナ アプリケーションを追加できます。複数のリポジトリをアプリケーション ソースとして設定できます。

前提条件

Helm チャート リポジトリへの接続が設定されていることを確認します。[Helm チャート リポジトリへの接続](#)を参照してください。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [アプリケーション] タブで、[新規アプリケーションの追加] をクリックします。
- 4 アプリケーション ソースとして [チャート リポジトリ] を選択します。

- 5 アプリケーションのインポート元のチャート リポジトリを選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 追加するアプリケーションとアプリケーションのバージョンを選択して、[次へ] をクリックします。
一度に複数のアプリケーションを追加できます。
- 7 アプリケーションを追加または作成する既存の VMware Cloud Director カタログを選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 アプリケーションの詳細を確認し、[追加] をクリックします。

結果

インポート タスクの完了後、カタログが公開されると、テナント ユーザーはアプリケーションをデプロイして使用できます。

カスタムの仮想マシン アプリケーションの追加

カスタムの仮想マシン アプリケーションを App Launchpad に追加するには、OVA ファイルがアップロードされている場所の URL を入力します。

前提条件

アプリケーションの OVA ファイルが、VMware Cloud Director がアクセスできる場所に保存またはアップロードされていることを確認します。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [アプリケーション] タブで、[新規アプリケーションの追加] をクリックします。
- 4 [仮想マシン アプリケーション] を選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 必要なアプリケーションの詳細を追加します。
 - a 名前を入力します。
 - b バージョンを入力します。
 - c (オプション) ログ画像をアップロードするか、画像の URL を入力します。
 - d OVA ファイルの URL を入力します。
 - e (オプション) サマリを入力します。
 - f (オプション) ドロップダウン メニューからカテゴリを選択するか、新しいカテゴリを入力します。
 - g [次へ] をクリックします。
- 6 (オプション) 説明を入力します。
- 7 (オプション) デプロイ手順を入力し、[次へ] をクリックします。
テキスト エディタでは、マークダウンのマークアップ言語がサポートされます。

- 8 アプリケーションを追加または作成する既存の VMware Cloud Director カタログを選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 アプリケーションの詳細を確認し、[追加] をクリックします。

結果

インポート タスクの完了後、カタログが公開されると、テナント ユーザーはアプリケーションをデプロイして使用できます。

アプリケーションの編集

App Launchpad のユーザー インターフェイスを使用すると、アプリケーションのデプロイ設定とアプリケーションの詳細を編集できます。また、アプリケーションのカスタム情報を追加したり、アプリケーションのカテゴリや機能アプリケーションのリストを管理することができます。

アプリケーション デプロイ設定の編集

VMware Cloud Director の組織および組織仮想データセンター (vDC) レベルで、デフォルトのアプリケーション デプロイ設定を変更できます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] タブで [デプロイ設定] をクリックします。
- 4 [組織の選択] ドロップダウン メニューから、デフォルトのデプロイ設定を編集する組織を選択します。
- 5 デフォルトのデプロイ ターゲット仮想データセンターを変更するには、[デフォルトの組織の仮想データセンター] ドロップダウン メニューから、新しいデフォルトの組織の仮想データセンター を選択します。
- 6 (オプション) 組織 vDC レベルでデフォルトのデプロイ設定を編集します。
 - a 組織 vDC を選択し、[編集] をクリックします。
 - b デフォルトの IP アドレスの割り当て方法を選択します。
 - c デフォルト ネットワークを選択します。
 - d デフォルトのストレージ プロファイルを選択します。
 - e デフォルトのサイズ設定テンプレートを選択し、[保存] をクリックします。

アプリケーションの詳細の編集

アプリケーションを App Launchpad に追加した後、名前、ロゴ、サマリ、説明、デプロイ手順、およびアプリケーションのカテゴリを編集できます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。

- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [アプリケーション] タブで編集するアプリケーションを選択し、[編集] をクリックします。
- 4 必要に応じてアプリケーションの詳細を編集し、[保存] をクリックします。
 - a アプリケーションの名前を編集します。
 - b 既存のロゴを削除するか、新しいロゴをアップロードします。
 - c サマ리를編集します。
 - d 説明を編集します。
 - e デプロイ手順を編集します。
 - f カテゴリを編集するには、ドロップダウン メニューからカテゴリを選択するか、新しいカテゴリを追加します。
 - g [保存] をクリックします。

アプリケーションのカスタム情報の追加

アプリケーションのカスタム情報を追加すると、すべてのアプリケーションの詳細ページにフィールドが作成されます。

カスタム フィールドと追加情報がすべてのアプリケーションの詳細に表示されます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] タブで [カスタム情報フィールド] をクリックします。
- 4 カスタム フィールドの名前を入力します。
- 5 追加情報を入力し、[保存] をクリックします。

テキスト エディタでは、マークダウンのマークアップ言語がサポートされます。

カテゴリの管理

App Launchpad 2.0 以降では、カテゴリを作成し、アプリケーションをカテゴリに追加できます。

テナント ユーザーは、アプリケーションを分類することでニーズに合ったアプリケーションをフィルタリングできます。

カテゴリの追加と削除

App Launchpad ユーザー インターフェイスを使用して、カテゴリを追加および削除します。[設定] - [カテゴリ] ページでカテゴリを追加するか、アプリケーションを追加するときに追加します。

[設定] - [カテゴリ] で、App Launchpad からカテゴリを削除することもできます。

カテゴリへのアプリケーションの追加

アプリケーションを App Launchpad に追加するときに、アプリケーションをカテゴリに追加できます。[App Launchpad へのアプリケーションの追加](#)を参照してください。

アプリケーションの詳細を編集して、アプリケーションをカテゴリに追加することもできます。[アプリケーションの詳細の編集](#)を参照してください。

機能アプリケーションを追加または削除

テナント ユーザーにアドバタイズされる機能アプリケーションのリストを変更できます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] - [機能アプリケーション]に移動し、[追加] をクリックします。
- 4 チェック ボックスを使用して、[機能アプリケーション] リストに含めるアプリケーションを選択し、[追加] をクリックします。

アプリケーションの削除

テナント ユーザーは、アプリケーションが不要になった場合に、App Launchpad から削除してストレージ領域を節約できます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [アプリケーション] タブで削除するアプリケーションを選択し、[削除] をクリックして操作を確定します。

サイズ設定テンプレートの操作

サイズ設定テンプレートは、テナント ユーザーがアプリケーションを実行するときに選択できる定義済みのリソース構成です。App Launchpad は、サイズ設定テンプレートを使用して、アプリケーションが実行されている vApp に定義したリソースを割り当てます。

テナントを簡素化するには、複数のサイズ設定テンプレートを作成します。既存のサイズ設定テンプレートを編集して、テナント ユーザーが必要としなくなったテンプレートを削除できます。

サイズ設定テンプレートの作成

テナント ユーザーがアプリケーションを実行するときに使用できるサイズ設定テンプレートを複数作成できます。サイズ設定テンプレートは、アプリケーションをデプロイするためのさまざまなコンピューティング リソース構成を提供します。

一度に複数のサイズ設定テンプレートを追加できます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] - [サイズ設定テンプレート]に移動し、[追加] をクリックします。
- 4 サイズ設定テンプレートの詳細を入力します。
 - a サイズ設定テンプレートの名前を入力します。
 - b 仮想 CPU 数を入力します。
 - c メモリサイズを GB 単位で入力します。
 - d ハード ディスク サイズを GB 単位で入力します。
 - e (オプション) デフォルトのサイズ設定テンプレートとして作成するサイズ設定テンプレートを設定するには、[デフォルト] ラジオ ボタンを選択します。
- 5 別のサイズ設定テンプレートを作成するには、[追加] をクリックして、サイズ設定テンプレートの詳細を入力します。
- 6 サイズ設定 テンプレートを作成するには、[追加] をクリックします。

デフォルトのサイズ設定テンプレートの設定

このデフォルトのサイズ設定テンプレートは変更できます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] - [サイズ設定テンプレート]に移動します。
- 4 デフォルトとして設定するサイズ設定テンプレートを選択し、[デフォルトとして設定] をクリックします。

サイズ設定テンプレートの編集

テナント ユーザーの要件の変化を満たすために、既存のサイズ設定テンプレートを編集できます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] - [サイズ設定テンプレート]に移動します。
- 4 編集するサイズ設定テンプレートを選択し、[編集] をクリックします。
- 5 サイズ設定テンプレートの詳細を変更し、[編集] をクリックします。

サイズ設定テンプレートの削除

テナント ユーザーが使用しなくなったサイズ設定テンプレートを削除できます。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (≡) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] - [サイズ設定テンプレート]に移動します。
- 4 削除するサイズ設定テンプレートを選択し、[削除] をクリックして、操作を確定します。

App Launchpad のリソースへのアクセスの管理

4

アプリケーションをテナントで使えるようにするには、アプリケーション カタログを VMware Cloud Director 組織に公開します。

この章には、次のトピックが含まれています。

- VMware Cloud Director の組織へのアプリケーション カタログの公開
- VMware Cloud Director 組織からのアプリケーション カタログの削除
- カタログの表示を編集

VMware Cloud Director の組織へのアプリケーション カタログの公開

テナント ユーザーがアプリケーションを使用できるようにするには、アプリケーション カタログを VMware Cloud Director 組織に公開します。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (☰) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [アクセス管理] タブで、[カタログの公開] をクリックします。
- 4 公開するカタログを選択して、[次へ] をクリックします。
- 5 カタログを公開する組織を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 公開タスクの詳細を確認し、[公開] をクリックします。

VMware Cloud Director 組織からのアプリケーション カタログの削除

VMware Cloud Director 組織からアプリケーション カタログを削除すると、組織内のユーザーは、カタログでアプリケーション使用できなくなります。

重要： VMware Cloud Director のユーザー インターフェイスまたは API を使用して、すべての VMware Cloud Director 組織に App Launchpad カタログを公開した場合、App Launchpad のユーザー インターフェイスを使用して、特定の組織からカタログを削除することはできません。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (☰) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [アクセス管理] タブで、[カタログの公開解除] をクリックします。
- 4 カタログを削除する組織を選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 削除するカタログを選択して、[次へ] をクリックします。
- 6 非公開タスクの詳細を確認し、[削除] をクリックします。

カタログの表示を編集

App Launchpad を使用して、テナント ユーザーに対するアプリケーション カタログの表示を制御できます。システム レベルでカタログの表示を編集します。

手順

- 1 VMware Cloud Director サービス プロバイダ管理ポータルにログインします。
- 2 メイン メニュー (☰) から、[App Launchpad] を選択します。
- 3 [設定] タブで [カタログの表示] をクリックします。
- 4 カタログの表示オプションを選択し、[保存] をクリックします。

オプション	説明
使用可能なすべてのカタログ	テナント ユーザーには、使用可能なすべてのカタログが表示されます。
App Launchpad カタログのみ	テナント ユーザーには、App Launchpad のカタログのみが表示されます。

App Launchpad のトラブルシューティング

5

問題を診断したり、デフォルトの設定を変更したりするために App Launchpad 操作のトラブルシューティングを行うことができます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- VMware Marketplace と App Launchpad の間の接続を作成できない
- VMware Marketplace のアプリケーションが同期していない
- VMware Marketplace からの vApp テンプレートの同期がタイムアウトする
- App Launchpad のランタイム環境構成の編集
- サポート バンドルの生成

VMware Marketplace と App Launchpad の間の接続を作成できない

App Launchpad が VMware Marketplace の API エンドポイントにアクセスできない場合、接続を作成できません。

問題

インポート可能なアプリケーションを参照するために、App Launchpad サーバが VMware Marketplace API エンドポイントにアクセスします。App Launchpad には、次の VMware Marketplace API エンドポイントへの送信アクセス権が必要です。

- `https://console.cloud.vmware.com`
- `https://gtw.marketplace.cloud.vmware.com`

App Launchpad が API エンドポイントにアクセスできない場合は、[マーケットプレイスの接続] ページで必要な VMware Marketplace トークンを設定できません。

エンドポイントがアクセス可能か確認するには、App Launchpad マシンから次のコマンドを実行します。

```
curl -i -k -v https://console.cloud.vmware.com
```

API エンドポイントにアクセスできない場合、システムは Status 302 メッセージを返します。

```
curl -i -k -v https://gtw.marketplace.cloud.vmware.com
```

API エンドポイントにアクセスできない場合、システムは Status 404 メッセージを返します。

原因

ファイアウォール ルールとネットワーク設定で、App Launchpad から VMware Marketplace の API エンドポイントへの送信アクセスが許可されていません。

解決方法

ネットワーク設定を再構成して、App Launchpad から VMware Marketplace の API エンドポイントへの送信アクセスを許可してください。

App Launchpad マシンの VMware エンドポイントへの直接送信アクセスを制限する場合は、HTTP プロキシを構成できます。HTTP プロキシの作成の詳細については、[App Launchpad のランタイム環境構成の編集](#)を参照してください。

VMware Marketplace のアプリケーションが同期していない

サブスクリプション カタログを作成および更新するには、VMware Marketplace に VMware Cloud Director の API エンドポイントへのアクセス権が必要です。

問題

アプリケーションを VMware Marketplace から App Launchpad にインポートした後、カタログの作成またはカタログの同期タスクが、VMware Cloud Director service provider admin portal のタスク パネルに表示されません。

原因

VMware Marketplace が VMware Cloud Director の必要な API エンドポイントにアクセスできない場合、アプリケーションを VMware Marketplace から VMware Marketplace にインポートすることはできません。

解決方法

VMware Marketplace が VMware Cloud Director の次の API エンドポイントにアクセスできることを確認してください。

- /api/admin/org/%s/catalogs
- /api/catalog/%s
- /api/admin/catalog/%s
- /action/sync

VMware Cloud Director API サーバに受信アクセス コントロールを実装した場合、VMware Marketplace からの受信要求を許可する SNAT ルールを定義します。VMware Marketplace の出力方向 IP アドレスを見つけるには、[設定] - [出力方向 IP アドレス] の順に移動します。

VMware Marketplace からの vApp テンプレートの同期がタイムアウトする

VMware Cloud Director セルが AWS S3 への送信アクセスを制限する場合、vApp テンプレートの同期タスクがタイムアウトして、VMware Marketplace の Bitnami アプリケーション カタログへのサブスクライブが失敗します。

問題

VMware Marketplace から Bitnami アプリケーションをインポートしようとする、タスクが 1% 完了したところでタイムアウトします。

また、VMware Cloud Director ログは、ホスト名 `*.s3.us-west-2.amazonaws.com` にアクセスできないとレポートします。

送信アクセスが制限されていることを確認するために、VMware Cloud Director セル マシンから次のコマンドを実行します。

```
curl -i -k -v https://s3.us-west-2.amazonaws.com
```

送信アクセスが制限されている場合、システムは Status 307 メッセージを返します。

原因

Bitnami アプリケーションが AWS S3 に保存されています。VMware Cloud Director が Bitnami カタログにアクセスできない場合、アプリケーションのインポートと同期はできません。

解決方法

このような問題を回避するには、VMware Cloud Director セルから AWS S3 への送信アクセスを許可します。VMware Cloud Director セルが、HTTP プロキシ経由の送信アクセスを許可する場合は、セル マシンでプロキシホストが構成されていることを確認します。

App Launchpad のランタイム環境構成の編集

リソースにアクセスするためのシステム プロキシを追加したり、Java 仮想メモリを拡張したりするには、App Launchpad の Java ランタイム構成を編集できます。

ランタイム環境を編集するには、`/opt/vmware/alp/ALPJavaEnvironments` ファイルを編集します。

注意： 正しくない値があると App Launchpad サービスの開始に失敗する可能性があるため、ランタイム構成を慎重に編集します。

手順

- 1 App Launchpad マシンへの SSH 接続を開きます。
- 2 テキスト エディタを使用して、`/opt/vmware/alp/ALPJavaEnvironments` ファイルを開きます。

- 3 システム プロキシを作成するには、次のパラメータを追加して、ファイルを保存します。

```
-Dhttp.proxySet=true
-Dhttp.proxyHost=${proxy_host_fqdn_or_ip}
-Dhttp.proxyPort=${proxy_port}
-Dhttps.proxySet=true
-Dhttps.proxyHost=${proxy_host_fqdn_or_ip}
-Dhttps.proxyPort=${proxy_port}
```

- 4 `systemctl restart alp` コマンドを実行して、App Launchpad サービスを再起動します。
- 5 `ps -elf | grep java` コマンドを実行して、ランタイム環境が正常に更新されたことを確認します。

システムは、パラメータを含む次のコマンド履歴を返します。

```
java
-Dhttp.proxySet=true
-Dhttp.proxyHost=... -jar /opt/vmware/alp/alp.jar --logging.path=log
```

サポート バンドルの生成

問題を診断するために、システムやランタイムの情報の生成や、ログ ファイルのサポート バンドルの収集が必要になる場合があります。

App Launchpad サポート バンドルには、次の情報が含まれます。

- サポート バンドルに関する詳細が記載されたテキスト ファイル。生成時に定義されたサポート バンドルの開始日、終了日、およびターゲット ディレクトリが記載されています。
- App Launchpad の構成の全詳細。ユーザー名やパスワードなどの秘密データは除外されます。
- App Launchpad サービス ログ

手順

- 1 App Launchpad マシンに SSH で接続してログインし、`su` を使用して、`root` 権限または `vmware-alp` ユーザー グループに属するユーザーの権限を取得します。
- 2 サポート バンドルを生成するには、次のコマンドを実行します。

```
support --log-startdate start-date --log-enddate end-date --log-path /opt/vmware/alp/log --out-dir target-directory
```

必要に応じて、`--log-startdate`、`--log-enddate`、`--log-path`、および `--out-dir` 引数を追加することもできます。

`--log-startdate` 引数には、ログの収集開始日を指定します。デフォルト値は 2018-01-01 です。

`--log-enddate` 引数には、ログの収集終了日を指定します。指定しない場合、終了日は現在の日付になります。

`--log-startdate` および `--log-enddate` 引数の値については、YYYY-MM-DD 形式の日付を入力します。

--log-path 引数には、ログの収集元のディレクトリを指定します。指定しない場合、ディレクトリは /opt/vmware/alp/log になります。

--out-dir 引数には、サポート バンドルの生成先ディレクトリを指定します。指定しない場合、サポート バンドルは現在のディレクトリに保存されます。

```
support --log-startdate 2020-03-12 --log-enddate 2020-05-24 --out-dir /tmp
```

結果

サポート バンドルが生成され、指定したディレクトリに保存されます。